専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	音声技術基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	FMラジオ番組出演(「おはラジ！」、「ビジネスウォッチングイン北大阪」の出演、TVでは「デイリーアドバンスコープ」「ぐるぐるコロンブス」「いかなあGO！」)をはじめとし、その他ナレーション、VP、講演会司会などの経験を活かした実習を行う。				

授業概要

・声の出る仕組みや、「アクセント辞典」を教材として使用し日本語全国共通語について理解し、自分の声を知り人に伝える声の作り方、話し方を理解する。
話し手として聞き手に判りやすく伝えるために必要な心技体を学び、人前で声を発する楽しさ、自分の言葉が聞き手に伝わる喜びに触れることを目的とします。

到達目標

・発声練習の基本姿勢、腹式呼吸、腹式発声、共通語アクセント、五十音の発声の仕方を学ぶ。
・鼻濁音、無声化の技術の習得またその練習方法。
・原稿の文章を明瞭に音声にする読み方の習得

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	ストップウォッチの操作 / アクセント辞典の使い方と必要性 / 質問形式での自己紹介による声、しゃべり方 / 方言のチェック / 発声練習時の基礎姿勢の習得 / 基礎姿勢での呼吸の仕方 / アクセント辞典の活用法
【前期】 3～6回目	呼吸の仕組み、声の出るメカニズムを学ぶ / 腹式呼吸の基礎 お腹の動き / 外郎売りの解説と実践 / イベントMCの影アナの練習 / 仰向けの姿勢からのアプローチによる呼吸 / ロングトーンと声の響き / ストップウォッチを使用した時間感覚 / アクセントと発声 / カウントにあわせた腹式呼吸 / 緊張のメカニズムと対策
【前期】 7～12回目	アクセントについての感想文の制作と発表 / 方言の良さ、共通語の必要性 / 座り姿勢から寝転ぶ形での腹式呼吸の体得 / 顔の表情筋、舌、響かせる箇所を学ぶ / 喜怒哀楽の感情を学ぶ / 自分を誉める1文の制作・音読 / 発言の癖、長所短所の発見
【前期】 13～16回目	サマーセミナー受講(これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) / 原稿の音読(200字程度) / 原稿読みでの息継ぎ / 短い文章の明確な音読 / 笑顔の作り方と効能
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～19回目	母音の口形、舌の位置、発声を正しく身につける / 外郎売の暗記1.2 / 前期のおさらいをする / 腹式呼吸の実践を高める / 固有名詞、数字のクリアな発音
【後期】 20～24回目	子音を学ぶ① / カ～ハ行の学習 / 主語、動詞、場所のカードワークで共通語のアクセントを鍛える / 海外ドラマのアフレコ原稿を使用の下読みをすることで役にあった声色を習得
【後期】 25～28回目	子音を学ぶ② / マ～ラ行の学習 / 雑音を無くし、クリアな発声を学ぶ / 明瞭に伝える滑舌の完成 / ウインターセミナー受講(これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	子音を学ぶ③ / ワ行の学習 / 鼻濁音、無声化の習得、完成
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末特別セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) / 年間総復習
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	声の仕事に必要な伝わる声の出し方、正しく話すための滑舌、日本語の正しいアクセントを2年間で学んでいきます。 またアクセント辞典の使い方の理解を深め、どの現場に行っても対応できるようになりましょう
使用教科書	アクセント辞典（入学時配布）・ストップウォッチ

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	舞台表現基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	脚本家・演出家として、タレント出演の商業ミュージカル・よしもと等の舞台の他、映画・TVドラマ等の幅広い作品を手掛ける。 プロダクション講師としても四万人以上の演技指導を行っている。				

授業概要

舞台を中心に身体表現の基礎である「演技術」を向上していく。
演技における身体育成から始まり、舞台での本番を重ね、演技者としての自覚をもつようになる。

到達目標

・舞台俳優としての自覚や経験、知識の習得及び活用
・演技基礎を用いたコミュニケーション技術の習得及び活用

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	演技準備 / 感情表現 / 発声活舌の技術向上 / キャラクター作りを学ぶ
【前期】 5～8回目	共演者との距離感を学ぶ / 演技プランの構想、共有
【前期】 9～12回目	演技の魅せ方、立ち位置、動き / 本番を想定した技術習得レベルの確認と改善
【前期】 13～15回目	サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) / 本番を想定した技術習得レベルの確認と改善 / 演劇公演へむけた稽古
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	前期振り返り及び復習 / 感情の理解を深める / キャラクターへの理解 /演劇公演へむけた稽古
【後期】 22～25回目	客観的に自分を観る / 様々な演技プランの構想、共有 / 演劇公演へむけた稽古
【後期】 26～28回目	演技の魅せ方、立ち位置、動き / 全体を俯瞰で観る / 演劇公演本番 / ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	発声 ・台本を用いた演技応用 / 進級・卒業公演稽古
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	演技は様々な捕らえ方が出来る上に自由度が高いですがその分自身の持っている表現力が問われます。 この授業では表現力を高めることと演技の基礎をしっかりと学んでいきます。
使用教科書	舞台演技台本（内容は年度により変更）

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	演技基礎実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	脚本家・演出家として、タレント出演の商業ミュージカル・よしもと等の舞台の他、映画・TVドラマ等の幅広い作品を手掛ける。プロダクション講師としても四万人以上の演技指導実績あり。				

授業概要

演技を中心に、設定、キャラクター等を創造し、実際に自分自身の身体を使い表現を行う。

到達目標

あらゆるイベントがある中で、自分の与えられた役割を理解し、本番に向けた準備を行い、本番で表現することが出来る。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	■ガイダンス/体操、柔軟、発声練習の基本練習の流れ（通年行うものとする） ■役を演じる1～4(・基本練習 ・テキスト1・台本を声に出してキャラクターの感情を演じるようになる。グループで行い協調性、団結力を育てる。フィードバックで表現の変化に気づく。)
【前期】 6～10回目	■台詞の意味を知る1～4(・基本練習 ・テキスト2・サブテキスト（台詞の下にある台詞）を理解し様々な表現を行うことが出来る。 ・グループで行うことで協調性と団結力を育てる。)
【前期】 11～13回目	■スタイルを知る（映像）1～3(・基本練習 ・テキスト3・映像テキストで情景、キャラクター、心情を理解し、表現していく。 ・グループで行うことで協調性、団結力を育てる。) ■サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 14～15回目	■スタイルを知る（映像）4(・発声練習 ・テキスト3 ・映像テキストで情景、キャラクター、心情を理解し、表現していく。 ・グループで行うことで協調性、団結力を育てる。)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～22回目	■一人で表現する1～4(①体操、柔軟、発声 ②テキスト5使用（読み、練習、発表、フィードバック）③一人で設定、情景、キャラクターを創造する。他の人の表現を見てフィードバックすることで自分の表現にしていく。)
【後期】 23～27回目	■小道具を扱う（銃）1～4/(剣)1～2(①体操、柔軟、発声練習 ②テキスト5使用（読み、練習、反復、発表、フィードバック）③大きな銃、小さな銃の持ち方を考えて表現できる。剣の扱いの所作を覚える。)
【後期】 28回目	ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	■小道具を扱う(剣)3～4(①体操、柔軟、発声練習 ②テキスト5使用（読み、練習、発表、フィードバック）③剣の扱いの所作を覚える) ■インプロヴィゼーション1～2(①体操、柔軟、発声練習 ②即興で情景、設定、心情、キャラクター等のクリエイトを行う。②場所、人物、障害、葛藤などを瞬時に作成していく。反復して習得する)
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～総復習〈①～⑥曲目〉 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	演技の表現方法は無限にあり、その引き出しを増やしていくためにクラスメイトと共に成長をして下さい。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	歌唱基礎実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・2007年 阪神若手音楽祭グランプリ受賞。2010年 河島英五音楽賞にて最優秀賞獲得。 ・2008年 シングル全国発売。ハドソン系着うたサイト インディーズランキング2位獲得。 ・2009年 GOING KOBE 09 出演。2010年 サマーソニック 2010 in東京 出演。 ・2012年 ユニット活動休止後、ソロ活動開始。				

授業概要

名曲6曲を通して、歌唱の基礎を学びます。特に前期では音程・ピッチを重視します。また後に、アーティキュレーションやビブラートなども課題として学んで行きます。

到達目標

・基本的な読譜・音程/ピッチの確立
・装飾音の確認、練習（アーティキュレーションやヴィブラート等）

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	機材説明 課題曲進行説明 / 基本的な読譜方法(反復記号・音部記号等) 〈①曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍、装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【前期】 6～10回目	〈②曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍、装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【前期】 11～13回目	〈③曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍 サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 14～15回目	〈③曲目〉装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習〈①～③曲目〉
【後期】 18～22回目	〈④曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍、装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【後期】 23～27回目	〈⑤曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍、装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【後期】 28回目	ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	〈⑥曲目〉ブレス位置確認、音程の確認 、同一音程、順次進行、跳躍、装飾音確認、音程やピッチの確立、暗譜歌唱
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～総復習〈①～⑥曲目〉 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	1年生の授業では、1970年代から現代の楽曲において、比較的取り組みやすいポップな曲、洋楽 ブラックミュージックから進化をとげたJ・R&B（ジャパニーズR&B）など。様々なジャンルの楽曲に取り組みます。また英語のリズムに少しでも慣れていくために、洋楽の基本を学びます。ボイストレーニングと連動させ、歌うための基礎のリズム、音程（声区）、表現を身につけていきます。またパフォーマンスヴォーカルとして、ステージで歌うことを想定した指導をしていきます。
使用教科書	譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	ダンス基礎実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	EXILE、DOBERMAN INC、MINMI、AI等のバックダンサー、オープニングアクトダンサーとして出演経歴があり、ダンスチーム「MO★JO」としてもコンテストで優勝経歴がある。ダンススタジオのインストラクターも兼任。実務経験を活かした実習を行っている。実務経歴10年				

授業概要

・音を聴く事により、リズムに合わせて身体を動かすことを学ぶ
・身体を動かすことで柔軟性を養い、怪我をしにくい身体作りを目指す。
・ダンスの理解を深める

到達目標

・身体の柔軟性を高め、可動範囲を知り動ける身体を作る
・基本姿勢と基本の動きの習得。
・基本的なステップが踊れるようになる
・ダンスの用語を知る事が出来る

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ウォーミングアップの一連の動きの説明 / 動き、部位の意識 / 体幹トレーニング
【前期】 4～8回目	<アイソレーション①>リズムの取り方 / ステップバリエーション / リズムワーク / グループワーク
【前期】 9～12回目	<アイソレーション②>リズムトレーニング / 振付 / フロアワーク
【前期】 13～15回目	<アイソレーション③>リズムワーク、フロアワークの習得、熟練 / グループワーク発表 / サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	前期復習 / ダブルターン、ピケターン、バッドマン等の習得
【後期】 22～25回目	アチチュード(基礎・応用)、ピケダブルターン、ターンコンビネーション(学んだターンの組み合わせ)の習得
【後期】 26～28回目	ダンスコンビネーション(振付の組み合わせ・表現力) / ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	ダンスコンビネーション(応用・熟練) / 振付の作成
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	様々なダンスを踊るため、学ぶ為に必要な身体作りをJAZZをベースに学んでいきます。 身体の柔軟性、姿勢維持などダンスをより上達させるための技術を繰り返し学び、基礎を作ることでプロの身体作りを目指しましょう。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	表現基礎Ⅰ		授業形態／必選	演習	必修
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	舞台作品を中心に20年以上活動。「かもめ」「から騒ぎ」「アルジャーノンに花束を」などに出演。				

授業概要

表現を行う基礎となる「身体」、自らの意思で動かすことによって、凡庸性かつ応用性を兼ね備えた「表現者としての基礎」を作り上げる。

到達目標

・身体の基礎を理解し、あらゆるジャンルにおいて自由な発想を思いつくようになる。
・反復作業によって習得していくものが「技術」だと理解し、ほかの様々なジャンルでの表現に対応できる。
・表現においてたった1つの正解はなく、自由に発想できるようになる。
・業界内における用語などを理解し、各種イベントで作業をする際に使用出来るようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	イントロダクション ／コーディネーショントレーニング ／有酸素運動のコンビネーション／ シアターゲーム（以下TG）を用いたアイスブレイ
【前期】 5～8回目	<身体の開放> CTと有酸素運動のコンビネーションの歴史と効果 ／TG各種過去に経験のない動きを反復し習得させる／身体の開放1～4のまとめ／ 習得が出来ているかの確認
【前期】 9～12回目	<身体と声> CTと有酸素運動のコンビネーションを通した声の変化 ／ 人体図を使った声の出方を知る／身体の変化によって声がどう変わるのかを実践
【前期】 13～15回目	<イベント準備> イベントに必要な資料の知識 ／資料の作成方法を学ぶ ／提出資料の作成のまとめ／他学科との共同授業の為の準備／サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	取り巻く環境<コミュニケーション論>コミュニケーションを技術と理解し、ロープレを反復しながらイベントでの実践を図る
【後期】 22～25回目	取り巻く環境<業界講座>目指す業界の成り立ちや現状を理解し、目標をたてる。
【後期】 26～28回目	<身体と環境> 個々の状況と環境を理解し、把握した上で表現に変化を加える技術を身につける。 ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	<イベント準備> イベント出演までの準備と台本の作成
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習／年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	パフォーマンスと一言で言っても様々なとらえ方があり、どの方向性からもアプローチが出来るように業界のことを知り、 コミュニケーション力を身に付け、表現者として必要な表現方法、声の出し方、パフォーマンスの方法を知っていきましょう。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	分野別基礎実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	必修
			年次	1 年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	TV番組・ラジオ番組・イベントMC・CMナレーション・トークショー・講演会・式典司会等、多数出演。				

授業概要

基本の発声練習を繰り返し行い、様々なイベント台本に則った進行、トーク技術の取得
MC, リポーターとしての進行技術、フリートーク力を身につける

到達目標

人前に立ち、井戸端トークや覚えたコメントの発表のようなお喋りではなく、ゲストに話しかけて伝えていくトークを目指す。
そして、MCとしてしっかり進行できるようになる。
また、リポーターとして視聴者（リスナー）に正確な情報、プラス五感を言葉で表現したり現場の様子を伝えることが出来る。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	MCとリポーターの仕事を知る / 発声課題で口のあけ方、ブレスを学ぶ / 台本のアクセントチェック方法を学ぶ / 歌唱コンテストの趣旨の理解、曲紹介、イベント進行の理解を学ぶ
【前期】 5～8回目	歌唱コンテストMC/出場者の呼び出し、オープニングガナリ、フリートーク、審査員紹介、審査発表、エンディングまでの流れを学ぶ
【前期】 9～12回目	リポータ / リポーターの基礎知識の習得 / 観光地の資料原稿作成
【前期】 13～15回目	サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) / リポータートーク展開の習得
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ブライダル実習１ / 結婚式、披露宴の知識の習得1.2 / 主賓挨拶から祝宴の進行までを学ぶ
【後期】 22～25回目	ブライダル実習２ / 友人のスピーチ紹介 / 場に合った雰囲気作りの進行 / 余興、送賓の進行を学ぶ
【後期】 26～28回目	外部イベントMC / 外部企業MCに向けた情報のまとめと準備 / 台本作成を行う / 転換中のフリートーク、エンディング進行を学ぶ　ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	ラジオ番組/ CUE SHEET、用語習得 / 正しい発声が出来る座り方 / 番組制作 / ラジオ音響機器の理解
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末特別セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	MCもリポーターもイベント進行の要となり、イベントそのものの雰囲気を作る重要な役割を担っています。 様々なシチュエーションに対応できるようになることで仕事の幅も広がり、可能性も広がります。
使用教科書	アクセント辞典/ストップウォッチ

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	声優基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択(必)
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	ゲームやマスコット等のキャラクターボイス、アフレコ、CMナレーションなどを中心に活動。 声優業以外にもドラマ・舞台の俳優業でも活動。専門学校・大学でも講師を務める。実務経験10年				

授業概要

声や身体を使って表現することに必要な土台作りを学ぶとともに、自身とは違う人物やキャラクターの感情、状態、背景を理解し、表現することを目的とする。

到達目標

・様々な役を演じ分けることが出来るようになる。
・基礎（発声・滑舌・アクセント）が理解できる。
・マイクワークが出来るようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	自己紹介・授業に向けての説明 /レベルチェック/スタジオ収録についての説明を知る/前期アフレコ収録（配役決め、読み合わせ）
【前期】 5～8回目	前期アフレコ収録練習（読み合わせ）/アフレコ収録（演技、タイミング）/アフレコの要点のチェック/発声練習（初級）
【前期】 9～12回目	滑舌練習（初級）/アクセント練習（規則と型を知る）/発声練習（中級）口や舌の位置、動きを知る
【前期】 13～15回目	基礎練習まとめ（発声、滑舌、アクセント）/腹式呼吸を身につける/アクセントの基礎と型を使い分ける / サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	台本を使っての感情表現/4W・目的・障害・葛藤・行動の活用/読みあわせと立ち稽古/感情表現(喜怒哀楽の表現)
【後期】 22～25回目	後期アフレコ収録練習/演技練習/アフレコ時のマイクワーク/細かく演技の質を上げていく
【後期】 26～28回目	発声練習（上級）/滑舌練習（上級）/アクセント（上級） アクセント辞書を使った標準語のアクセントを学ぶ ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	アフレコ練習(アニメ映像とアフレコ台本を使用し教室内でアフレコを行なう)
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	声だけで演じることは表情や動きが見えない分、演劇等とは違う表現が求められます。 またマイクに向かって話すための技術、ディレクターとのやり取りやアフレコの際に使用するヘッドホンの使用方法など、声優のメインのお仕事となるアフレコを発声の基礎と共に学んでいきます。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	演技基礎Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	モデルとして活動後、劇団に入団。 約10年舞台役者として舞台公演や学校公演等でキャリアを積み重ねた後、脚本・演出にも携わる。				

授業概要

演技に関わる基礎を繰り返し練習、発表することによる表見技術の習得と向上。

到達目標

・俳優・表現者・演技者・エンターテイナーとして自信や自覚を持ち、経験や知識を得られる
・演技を用いたコミュニケーション技術の習得および活用ができるようになる。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	レベルチェック / エクササイズと発声 /課題作①(本読み・立ち稽古・歌稽古・通し稽古・仕上げ)
【前期】 5～8回目	課題作②(本読み・立ち稽古・歌稽古・通し稽古・仕上げ)
【前期】 9～12回目	前期試験課題作(本読み・振付・芝居稽古・歌稽古) / サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 13～15回目	前期試験課題作(通し稽古)
【前期】 16～17回目	【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ミュージカル課題作(本読み・歌稽古・振付前半・立ち稽古)
【後期】 22～25回目	ミュージカル課題作(歌稽古・振付後半・芝居稽古)
【後期】 26～28回目	ミュージカル課題作(通し稽古・演劇公演) / ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	後期試験課題作(本読み・振付・芝居稽古・歌稽古)
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ·90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	演技は様々な捕らえ方が出来る上に自由度が高いですが、その分自身の持っている表現力が問われます。この授業では表現力を高めることと、演技の基礎をしっかりと学んでいきます。また、コミュニケーション力も必要になるので周りの学生もサポートしながら皆で作り上げましょう。
使用教科書	授業内容に応じたテキストまたは台本をその都度配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	ナレーション実習Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	「ジモスポ～京都～」（J:COMチャンネル）、「OSAKA1番らばー」「わざわざ言うTV」（TVO）、「谷口キヨコの旬なKANSAIトレンド＋」（eo光チャンネル）、「D-IMPACT」「BINBINソルト（釣りビジョン）、「EXILEスペシャル」「w-inds.SP」のナレーションを務める				

授業概要

ナレーションというものを感覚と理論で理解し、必要な技術と知識を身につける
文章内にある複雑な感情表現を「感情開放」することで各々独自の表現方法を目指す
比較的簡単な原稿からはじめ、徐々に難易度を上げていきながらも個々の技量に合わせた指導を行う
1つの原稿を2週にわたり使用し、予習と復習が出来る体制を作る

到達目標

・ナレーションとして原稿を読む際に必要なアプローチ方法を習得できる
・ナレーション表現に必要な知識や技術を理解することで自身の考え方に基づいたオリジナリティ溢れる表現が出来るようになる
・感情表現や言葉、アクセントを大事にすることで美しい日本語を理解できる

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ナレーション基礎理論の説明　/ナレーション基礎理論　原稿Aを使用/ナレーションの決まりごと、注意点/原稿A　ナレーションの基礎理論　/ナレーションの決まりごとや注意点の復習
【前期】 5～8回目	読む力の形成と実践　/ナレーション原稿Bの実践/原稿Bの復習/必要な基礎力（滑舌、発声、表現、速度、コントロール力）
【前期】 9～12回目	原稿D 「表現力」の理解/原稿D　復習/原稿E　文章の流れや意味、句読点や言葉のつながり方/原稿Eの復習
【前期】 13～15回目	悪癖（文頭、文末のおとのうねりやぶつ切り）をチェック/悪癖を原稿Fを使用復習することで修正/前期の復習１～２ / サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ナレーション基礎理論（緩急、強弱、間の概念）　原稿Gを使用/ナレーション基礎技術のおさらい/原稿の媒体や、文章の意図、主旨に沿った適切な感情表現　　原稿Hを使用する/原稿Hの実践とおさらい
【後期】 22～25回目	ボイスサンプル収録の原稿選考/原稿2つを繰り返し読む/原稿を演出構成/感情表現を活かす演出の練習
【後期】 26～28回目	悪癖や注意点の修繕/原稿の最終確認/反省の確認/前回の課題を原稿Iを使用し修正 / ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	悪癖の修正/前回の課題、反省点　原稿I/後期復習１～２
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 / 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題　/実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	ナレーターは言葉のプロです。アクセント、滑舌など発声の基礎はもちろん、主旨にあった表現力も必要になります。 基礎を押さえながら個性も出すことで独特の雰囲気のナレーションが生まれます。自分の声に合ったナレーションが出来るようにしっかりと基礎を学んでいきましょう。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	アンサンブル基礎		授業形態 / 必選	演習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優&ミュージシャン				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・アニメソング等で活躍する串田アキラ、宮内タカユキのサポートギタリストを務める。 ・「David Lee Roth BAND」の「Toshi Hiketa」氏の教則DVDのレコーディング、ライブシューティングに参加。 ・現在自己のバンド「selfish suqare」で活動中。 ・楽器メーカーのモニター・デモンストレーター、アーティストサポート、映画音楽、セッション等多方面で活躍。				

授業概要

・課題曲を通して各楽器毎の練習及び各個人のレベル向上を目指すと共に、他パートとのアンサンブル技術を養う

到達目標

・各楽器毎の練習及び各個人のレベルの向上
・アンサンブル技術の向上

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	課題曲①② パート毎の練習#1～3～アンサンブル
【前期】 6～10回目	課題曲③④ パート毎の練習#1～3～アンサンブル
【前期】 11～12回目	課題曲⑤⑥ パート毎の練習#1～2
【前期】 13～15回目	サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) 課題曲⑤⑥ パート毎の練習#3～アンサンブル
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～22回目	課題曲⑦⑧ パート毎の練習#1～3～アンサンブル
【後期】 23～27回目	課題曲⑨⑩ パート毎の練習#1～3～アンサンブル
【後期】 28～29回目	ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う) 課題曲⑪⑫ パート毎の練習#1
【後期】 29～32回目	課題曲⑪⑫ パート毎の練習#2～3～アンサンブル
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	各個人、各楽器毎での完成度を上げるだけでなく、他の人・他のパートと協力し、楽しいセッションを行っていきましょう
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	アンサンブル実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	35回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優&ミュージシャン				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・Bob James、Ken Navarroなど海外アーティストと数多く共演。 ・大西ユカリ、植村花菜、akikoなどのメジャーアーティストのサポートメンバーとしてツアーやレコーディングに参加。				

授業概要

「アンサンブル」の授業の課題曲を事前に練習する授業となります。
課題曲はヴォーカルに合わせて男子曲と女子曲の2曲あり、楽器演奏のコースは2曲とも演奏できるように練習します。
演奏上のポイントや具体的な奏法など技術的な指導をすると共に、楽曲分析により曲の理解を深めます。
この授業を通して、楽曲の聴き方や音楽の楽しみ方を学び、人と人とが奏でる音楽「アンサンブル」に繋げていきます。

到達目標

楽曲の構造・アレンジなどを理解し、今後の自身の音楽制作に反映させることが出来る。
スタジオでのバンド演奏の前に、楽曲を予習しておく重要性を認識し、十分に練習を積んだ上でアンサンブルに臨む姿勢を身につける。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	【男子曲①女子曲①】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 5～8回目	【男子曲②女子曲②】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 9～12回目	【男子曲③女子曲③】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【前期】 13～15回目	【男子曲④女子曲④】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜 サマーセミナー受講(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	【男子曲⑤女子曲⑤】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 22～25回目	【男子曲⑥女子曲⑥】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 26～29回目	【男子曲⑦女子曲⑦】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜 ウインターセミナー受講(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 30～32回目	【男子曲⑧女子曲⑧】曲の仕込み　曲の構成/譜読み/サイズ確認/各パーツ練習～フルコーラス練習/暗譜
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末特別セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	・前後期の実技試験により評価　課題の達成度/課題への取り組み姿勢/平常点などを総合的に評価 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	アンサンブルはカラオケと違い、一緒に演奏するメンバー全員で楽曲をつくりあげます。 自身のプレイだけでなく、音量バランスや他の人の演奏に意識を向けられるよう、余裕をもった 演奏ができるように繰り返し練習しましょう。
使用教科書	授業ごとにテキストプリントや譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	表現応用Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	30回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	メイクセラピー「shin.shin」の経営をしてい傍ら、「一般社団法人日本アピアランスセラピー協会」の代表理事を勤める。甲南大学でも講演を行っている。営業や就職に向けたメイク講座の実施経験を多く持つ。実務経験17年。				

授業概要

・メイクやヘアレンジの基本を学び自分の考察に基づいたアイディアを形にしていく。
・自己プロデュース力を高め、自信をつける
・流行のメイク方法を取りいれステージに立つことを意識した見せ方を学ぶ

到達目標

・メイクのベースが出来るようになる
・メイク道具の使い方がわかるようになる
・ヘアアレンジの基礎を理解できる
・人にすることにより、自分に対しても出来るようになる

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	メイク基礎　ベースメイク→ポイントメイク/メイク品の紹介/ベースメイク1　/ ベースからファンデーションの順序を理解する
【前期】 5～8回目	ベースメイク2　コントロールカラー、コンシーラーの役目 / ファンデーションのタイプ / ベースメイク実習　/ ポイントメイク　アイメイクの順序を理解する
【前期】 9～12回目	ポイントメイク2　アイカラーの塗り方、アイライン / ビューラーの使い方、マスカラの塗り方 / ポイントメイク1，2実習　/ アイブロウのタイプ、ソップカラーの塗り方を覚える
【前期】 13～15回目	ポイントメイク1～3実習　/ フィニッシュメイク　チークカラー、ハイライト、ローライトの入れ方/ トータルメイク実習（自身）　/ トータルメイク実習（ペア）1/サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ヘアアレンジ実習1　髪のとかしかた→ブロー / 三つ編み裏編みの構造 / ヘアアレンジ実習2　三つ編み、裏編み、フィッシュボーン / ピンの留め方
【後期】 22～25回目	ヘアアレンジ実習3　ホットカーラー / 今まで学んだことを使ってヘアアレンジを完成1～2/ ヘアアレンジ作品制作（ペア）1
【後期】 26～28回目	ヘアアレンジ作品制作（ペア）2　/ テーマ別ヘアアレンジ作品制作1 / ポニーテール、ツインテール等、結び方を学び / テーマ別ヘアアレンジ作品制作2/ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	ヘアアレンジ演習(ペア)1　/ ヘアアレンジ演習(ペア)2　/ イベント用ヘアアレンジ制作1～2
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題　/実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	人前に出る仕事を目指す上で見栄えは重要です。メイクやヘアセットなど最低限のやり方を知り、アレンジしていくことで個性を出せるようになります。男性女性に関わらず、人前に出る際の身だしなみと共に、ヘアセット、メイクの仕方の基本をしっかりとおさえておきましょう。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	分野別応用実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	70回（140単位時間）	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・2009年木村充揮を父に持つ木村俊章とロックバンド「BAHARANA」結成。 ・ジョニー吉長、内田勘太郎、寺岡呼人等大御所ミュージシャン・バンドと共演を重ねる。 ・2012年6月バンド活動休止後は、ソロアーティストとして活動中。				

授業概要

オーディションやコンテスト、ライブなどで使用する曲を分析し研究することで自分の歌にする。
曲によって変わるアプローチ方法を学ぶ
歌を通して表現力を身につける

到達目標

・楽曲理解、分析(曲調、リズム、音程、フレージングなど)
・ヴォイストレーニングで習得した発声力でのアプローチ
・楽曲に対しての自己分析の強化
・表現力の向上
・ステージ上にてより素晴らしいパフォーマンスを目指す

授業計画・内容	
【前期】 1～8回目	選曲/準備の仕方・1コーラス歌唱/仕込み/基礎　2コーラス歌唱/基礎の確立
【前期】 9～16回目	苦手部分の反復練習/ フルコーラス歌唱/歌い込み/ 総合的反復練習
【前期】 17～24回目	基礎の確立/ ダイナミクスを付ける/ 2コーラス歌唱/ フルコーラス歌唱
【前期】 25～30回目	歌い込み/ 総合的反復練習 / ステージングの練習/ フルコーラス歌唱 サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 31～34回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 35～42回目	細かいピッチ、リズムの改善/　10月のコンテストを目標とした練習/色づけ/オケのアレンジについて
【後期】 43～50回目	暗譜、客観視/歌い込み（総合的反復練習と修正）/ 12月のコンテストへ向けて選曲/歌い込み/ 12月のコンテスト曲の準備、練習
【後期】 51～58回目	曲の仕込み、分析/ 12月のコンテストを目標とした練習/ 基礎の確立 / 細かいピッチ、リズムの改善 ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 59～64回目	色づけ・歌詞の解釈 / 暗譜、客観視 / スタミナ、持続力の強化/歌い込み（総合的反復練習と修正。）
【後期】 65～70回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末特別セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題　/実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	選曲は先生に頼らず学生が自分の考えで決定します。 皆さんが大好きな歌、上手く唄いたい楽曲を選曲し、学内発表会やコンテストなどで発表する曲もこの授業でチェック出来ます。自信を持って歌うには、細かな楽曲理解、分析が必要です。自身の歌を録音し、客観視しながら復習にも役立てましょう！ また、ヴォイストレーニングで学んだ発声力を利用し、自己選曲に自信を持って唄えるよう、成長していきましょう！！
使用教科書	学生が歌詞カードを提出

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	歌唱トレーニング Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	30回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	・2003年に「twenty4-7」を結成し、2007年にavexからメジャーデビュー。 ・シングル・アルバム通算15枚をリリース。 ・2012年9年間の活動を経て「twenty4-7」解散後、現在はソロとして活動中。				

授業概要

歌うための発声方法を様々なトレーニングから自身にあった発声を学ぶ。
ヴォイストレーニングと通して、正しい発声方の知識と技術を習得していく。

到達目標

・基本フォームである、喉頭の位置・姿勢・顎の位置・腹式呼吸の理解
・各母音の共鳴を得るための口腔内のフォームである、顎の開き・舌の位置（高さ・前後）、咽頭腔の理解
・声区（チェストヴォイス・ミドルヴォイス・ヘッドヴォイス）の理解
・声帯閉鎖による声区融合の達成
・ヴィブラートの仕組みの理解と技術の習得

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ヴォイストレーニング導入／スタビライゼーション（体幹トレーニング）/ 基本フォーム①姿勢・顎・腹式呼吸/・チェストヴォイスの確立
【前期】 5～8回目	ヘッドヴォイスの発見 ファルセットとヘッドヴォイスの相違 /チェストヴォイスとヘッドヴォイスの声区移動/ミドルヴォイスの発見
【前期】 9～12回目	ヘッドヴォイスの開発/ ヘッドヴォイスの強化からミドルヴォイスの発見 / ヴィヴラートの仕組みとトレーニング/チェストヴォイスとヘッドヴォイス
【前期】 13～15回目	声区融合と各母音の相違の理解 / ・ヴィヴラート練習 / 各母音の練習（音程の変化と波のスピードアップ）/総合的反復練習/サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ヘッドヴォイス～ミドルヴォイスの復習/ ヴィブラートの復習/ 喚声点（男性E4/F4、女性B♭4/B4)の克服 / ヴィヴラート練習
【後期】 22～25回目	喚声点（男性E4/F4、女性B♭4/B4)の克服 / 広い母音（ア・オ）を中心とした練習 /ヴィヴラート練習/狭い母音（イ・エ・ウ）を中心とした練習
【後期】 26～28回目	総合的反復練習 / 課題曲を使用した母音トレーニング～広い母音（ア・オ）を中心とした練習1～3 ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	総合的反復練習 / ヴィヴラート練習/狭い母音（イ・エ・ウ）を中心とした練習1～3
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ・90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	チェストヴォイス（地声）には限界があります。高くなれば声が裏返りやすくなります。個人差がありますが、洋楽・邦楽・過去・現在を問わず、 裏返るポイントは似ており、多くの人の裏返りやすくなる場所は男性の場合、E（ミ）かF（ファ）、女性の場合かB♭（シ♭）かB（シ）となっています。 それ以上の音は、PULLしている場合が多いのです。 この地声の限界のことを「ブレイクポイント（換声点）」といいます。 それでは、実際にプロの歌手の皆さんはどのようにして高い声を出しているのでしょう?実はプロの皆さんは、チェストヴォイスだけに頼らずに 「ミドルヴォイス」や「ヘッドヴォイス」を駆使しています。「ミドルヴォイス」と「ヘッドヴォイス」はファルセットとは違い、芯があり「チェストヴォイス」の 様に力強く聴こえます。この授業を通して、正しい発声方を獲得し、アーティストへと成長していきます。
使用教科書	別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	ベーシック実技Ⅰ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	30回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 声優アーティストコース/声優&スタッフコース/声優&ミュージシャン/タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	テレビ番組では出会いのまち西宮(サンテレビ)、大阪マラソン(eo光テレビ)リポーターとして ラジオでは中央競馬実況中継(ラジオNIKKEI)、CMでも大阪国際女子マラソン（Na）、SD共済（Na）、紀州南高梅（Na）等々 多くの番組でナーレター、MC、ラジオパーソナリティーを務める				

授業概要

フリートークが自然に出来るようになるために様々な情報を収集し、授業内に取り入れていく。
ラジオは言葉だけで表現するメディアなので、人に伝わる表現力を身につける事と、時間やテーマに臨機応変に対応出来るようになる。

到達目標

・ラジオパーソナリティとしての仕事を知る
・ラジオに必要な知識、段取りを知る
・臨機応変に話せるようになる事。自分の個性を知る事。

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	自己紹介/インタビュー /グループワーク/フリートーク
【前期】 5～8回目	ラジオ原稿を使用し、感覚を掴む/同じトークネタでフリートーク/リポート/世の中の話題を記事にし、言葉で紹介
【前期】 9～12回目	ラジオのオープニング/記事の読み方、CUEシート/収録実習１～２
【前期】 13～15回目	収録実習３～５/リポート　夏休みのリポート サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	ラジオ収録1～4　収録1回目　ラジオ収録原稿の担当者/原稿のチェック。ブレス位置/アクセントなど弱点の確認 /　ディレクターとの打合せ
【後期】 22～25回目	ラジオ収録5～8　ラジオ局にて収録/　現場ハーサル /　実際に収録をする/　収録したものを聞きなおす
【後期】 26～28回目	ラジオ収録9～12　収録2回目の準備　/　ラジオ収録原稿の担当者/原稿のチェック,ブレス位置/アクセントなど弱点の確認/ディレクターとの打合せ/ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	ラジオ収録13～17　ラジオ局にて収録 / 現場リハーサル / 実際に収録をする　/ 収録したものを聞きなおす
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題　/実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	ラジオを普段聴かない人もいますが日本中で24時間ラジオはあらゆる地域で放送されています。また、災害時にも役立ちます。フリートークのスキルはいかに事柄に通じているかだけでは無く、知らないことでも話を広げるトークスキルも求められます。また番組の構成が考えられることは戦力となりますので沢山経験を積んで下さい。
使用教科書	

専門学校ESPエンタテインメント大阪（学校法人イーエスピー学園）：授業計画

授業科目名	ベーシック実技Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択（必）
			年次	1年次	
授業時間	90分（1単位時間45分）	年間授業数	30回（70単位時間）	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■声優芸能科 タレントアクターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当 ■	非該当 □	
担当講師 実務経歴	EXILE、DOBERMAN INC、MINMI、AI等のバックダンサー、オープニングアクトダンサーとして出演経歴があり、ダンスチーム「MO★JO」としてもコンテストで優勝経歴がある。ダンススタジオのインストラクターも兼任。実務経験を活かした実習を行っている。実務経歴10年				

授業概要

・FREE STYLEを通してダンスのジャンルへの理解
・FREE STYLEの習得
・リズム、ボディバランス、表現力の習得

到達目標

・基本的なダンスが踊れるようになる。
・振付に組み込むことが出来る。
・身体の稼動範囲を知り範囲拡大と強化が出来る

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	自分の身体を知る / アイソレーションで身体の稼動範囲を知る/ リズムとステップ / 組合せ1 ①リズムとアイソレーション
【前期】 5～8回目	ボディバランスの意識 / ルーティンをつなげる / 組合せ2 ①胸と腰のアイソレーション / ステップの強化
【前期】 9～12回目	リズムとアイソレーション / 音を刻む / リーティングをつなげる / ボディコントロール
【前期】 13～15回目	視野を広げる ①様々な角度を意識して踊る / フリーに踊る / 強弱、緩急をつけて踊る / 方向を捉える サマーセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【前期】 16～17回目	試験対策授業～【前期試験】～前期総復習
【後期】 18～21回目	前期の応用 筋力トレーニング / アイソレーションの復習 / 振付1 / 柔軟
【後期】 22～25回目	リズム+アイソレーション1 / ステップ1 振付2 / リズム+アイソレーション2 / ステップ2 振付3
【後期】 26～28回目	フロアワーク1 振付4 / ボディコントロール1 振付5 /振付6～7 ウインターセミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
【後期】 29～32回目	コミュニケーション1 振付8 / 総合パフォーマンス1 / 振付10 / 全体のパフォーマンスの復習
【後期】 33～35回目	試験対策授業～【後期試験】～後期総復習 年度末セミナー(セミナーを受講し、これまで学んできた知識を深め、応用技術の理解・習得を行う)
評価方法	学期末に実施する試験により「平常点 /基礎課題 /実技 /資料作成 」の到達度を評価する。 ･90点以上「S」、89～80点「A」、79～70点「B」、69～60点「C」、60点未満「D」、履修放棄「E」、試験不合格「F」（S～C=合格、D～F=不合格）
学生へのメッセージ	ダンスのジャンルとしてはFREE STYLEは自由度が高く、一般的なダンスの基礎の部分を多く取り入れています。 振付をメインにリズムや身体能力、表現力を学び表現者としての土台を作っていきます。 最初は難しく感じることが多いですが繰り返し動くことで自分の動きとして取りこめるようになりますので焦らず楽しみながら学んでいきましょう。
使用教科書	